



**【赤谷の森の猛禽類調査】**

赤谷プロジェクトの活動では、赤谷の森のエリア内に生息しているイヌワシ・クマタカとクマタカ・ペア（隣接エリアもペア含む）の調査を毎年行っています。この調査を行うチームはASTR（Akaya Special Team for Raptors）と命名し、プロジェクト中核3団体（赤谷プロジェクト、地域協議会、(公財)日本自然保護協会、関東森林管理局）と、一般の方が協力して調査活動を続けています。



赤谷のイヌワシ（撮影者：上田大志氏）

イヌワシは羽を広げると2m近くになる大型の鳥で、全国で500羽程度が生息していると言われています。クマタカも同じく1m70cm程になる大型の猛禽類で、推定で全国に2千羽程生息していると言われています。どちらもレッドデータブック絶滅危惧ⅠB類（近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種）に指定され全国で保護活動が行われています。

この2種類の猛禽類が共に生息し、かく繁殖している地域は珍しく、赤谷の森は大変貴重な生態系といえます。この2種類は生態や利用する環境が大きく異なり、両種が繁殖し続ける生態系は生物多様性に富むと共に、生産性の豊かさを有



クマタカの飛翔（撮影者：阿出川栄次氏）

しているため、それを守りまた向上させることは生物多様性の維持あるいは復元に繋がること期待されます。そのためには、この2種類の猛禽類の科学的な現状評価が必要であり、ASTRによるこれまでの調査で、繁殖ペアの分布区域と繁殖率、営巣環境や食性などが徐々に明らかになっていきます。

ASTR調査はイヌワシとクマタカそれぞれ別に行われ、委託事業によるもの、自主的なものを含め年間約50日間の調査を行っています。調査は春先に繁殖したかどうかの確認のため、抱卵や雛への給餌行動等の確認や、夏以降には幼鳥の巣立ちやその後の行動調査、幼鳥が巣から離れてからの食べ物等の残渣調査などを行っています。観察はイヌワシは営巣地の近く、クマタカは巣が見える場所からも行います。ただし、イヌワシもクマタカも非常に繊細な生き物で、特に繁殖期は人間の気配にとても敏感になります。したがって、できるだけ少人数で、また姿が見えないよう気を遣って行う必要があります。なお、営巣場所や観察ポイントの情報や、観察マネーを知らない方に広まると子育てや生息に悪影響が出てしまうため、ASTRに参加いただく方には情報管

理について誓約書を書いてから参加いただいています。



見つかった残骸



巣の下で残骸調査

今年度の調査では、イヌフシについてには残念ながら、2016年、2017年の2年連続成功に続いての3年連続の繁殖成功とはならなかったもののクマタカは7ペアのうちエリア内1ペア、隣接1ペアの2ペアが繁殖に成功し雛が巣立ったことが確認されました。

また、昨年6月には、みなかみ町立新治小学校の児童たちも環境学習の一環として巣の中のクマタカの雛の様子などの観察を行いました。

今後も赤谷プロジェクトではイヌフシとクマタカの生息する希有なこの赤谷の森の保全と復元を目指すとともに、地域の豊かな自然と生き



営巣木のモミの木（中央部が巣）

物の未来の守り手である子供たちへの環境教育を支援していきたいと考えています。



クマタカ学習会（新治小学校の子供たち）



きのこ特集

「名がない頃から食べていた?」  
ドウシシタケ（食用）

（テングタケ科 テングタケ属）

8月下旬から10月中旬にかけて、主に海岸の松林に散生します。

カサは、4cmから10cm位で表面は、黒色から黒褐色で溝線があり、湿っている時は多少の粘性があります。

ヒダは、離生し白色で縁が黒く縁どられています。

柄は、7cmから10cm位で白色の地に黒色のダンダラ模様があり、上部には、灰白色のツバ（内皮膜）があり、根元には、白色の深い袋状のツボ（外被膜）があります。

和名「ドウシシタケ」は、和名が付けられる前から新潟県の紫雲寺地方で、このきのこを「ドウシン」と呼んで食べており、発生場所も紫雲寺地方以外から確認されていなかっ

たことから、地元で呼ばれていた名前をそのまま採用し「ドウシシタケ」という和名が付けられました。



「あなたも舞ってみよう」  
マイタケ（食用）

（サルノコシカケ科 マイタケ属）

秋にミズナラ等の広葉樹の根元等に発生します。

カサの色は、黒褐色から黒色、形は扇型で、径は2cmから5cm、縦に重なります（裏は管孔）。

柄は5cmから10cmあります。扇形カサの集合体で大きいものは、直径30cm高さ30cm重さは10kgにもなるものもあります。

和名「マイタケ」は、見つけた人が嬉しさのあまり舞を舞ったことが由来と言われています。



マイタケの老菌  
（胞子を飛ばしたあと）